

VRTからスタートする 中高一貫校でのキャリア教育

立教池袋中学校では、VRTを20年以上活用しています。幅広く職業について知り、将来を考えるきっかけとするために、VRTをキャリア教育のスタートに位置づけています。昨年3年生の担任をされていた重原康秀先生にお話を伺いました。



重原 康秀 先生
立教池袋中学校・高等学校
教諭

●立教池袋中学校・高等学校

所在地：東京都豊島区西池袋5-16-5

設立：明治29(1896)年/平成12(2000)年に立教中学校を再編、中高一貫校として開校
生徒数：中学校453名（2022年4月現在）

●中3～高1のキャリア教育（2021-2022年度）

中3	10月	職業レディネス・テスト
	12月	自分史レポート
	1月	面談指導
	2月	高校推薦入試（面接試験）
高1	5月	キャリア学習プログラム（5日間）
	①	キャリアデザインに関する基調講演、インタビュー手法について
	②	グループごとのインタビュー準備
	③	企業訪問、インタビュー実施
	④	グループごとのインタビューまとめと発表準備
	⑤	プレゼンテーション
	●	この5日間は通常の授業を行わず、特別プログラムと称して「キャリア学習」を実施している。

●職業について、自分について 知るきっかけに

進路や将来を考えるきっかけ作りとして、中学3年生でVRTを実施しています。生徒は、職業というと消防士、教員など数少ない身近な職業しか知りません。しかし、VRTを実施することで、今まで知らなかった職業について幅広く知ることができるので、それだけでも実施する意義があります。2コマ使って、実施、採点、「結果の見方・生かし方」を使用した分析・ワークを行っています。

生徒は楽しそうに実施し、結果を見えています。自分についての関心も高まる時期なので、基礎的志向性など、自分のことを客観的に知る良い機会でもあります。また、主観的に見た自分と同じか、違う部分があるかなど、興味を持って結果を見えています。

中学生のこの段階では、職業的発達には個人差も大きく、分化していない生徒も多いですが、結果を見てがっかりしているような場面は特に見受けられないので、ツールとして使いやすいいと思いますね。

「結果の見方・生かし方」は、保護者会で配って見ってもらっています。何もないところで、親子で将来のこと、職業のことを話すのはなかなか難しいです。ですから、これをきっかけに話し合う機会にしてほしいと思っています。

●体系的なキャリア教育を VRTから始める

本校は中高一貫校なので、中学3年生～高校1年生まで体系的にキャリア教育を行っています。中3の10月にVRTを実施して将来のことを考え、11月には「自分史レポート」を作成し、中学生生活を振り返ります。

高校へは推薦制度が設けられていて、学科試験は行いませんが、2月に面接試験を行い、高校入学への意識づけをします。その面接試験に向けて1月に面談指導を行います。面接では、具体的なエピソードを踏まえて答えるように指導していますが、VRTの結果や自分史レポートが、その資料として参考になります。

高校1年では、5月に連続5日間、「キャリア学習プログラム」が展開されます。興味のある職業の近い人同士8人で1グループとなり、実際に企業を訪問し、一人の社会人にインタビューを行います。社会人の方に来校いただくという方法もありますが、教室のなかだけで完結してしまうのではなく、なるべく実際の環境に触れること

により、インパクトを受けたり、感受性を豊かにするために、訪問という形をとっています。

インタビューの際は、職業について知るといふよりは働くとはどういうことなのかという仕事観（例えば、自己実現、社会貢献など）に焦点を当てるように指導しています。

●将来を考え、これからの社会 で身に付けるべき本質的な力を

本校はいわゆる「中高一貫教育」を超えて、大学までを視野に入れた「立教学院一貫連携教育」を目指しているため、時間的にゆとりがあるので、このようなプログラムを展開できるのだと思います。大学受験があれば、それが将来について考える機会になります。本校では受験を経ることなく日常生活を送っていても大学まで行くことができずしてしまいます。そのため、より一層将来を考える機会を作りたいという強い思いがあります。

今は職業選択の難しい時代になってきています。生徒は以前よりも安定志向になって、将来役に立ちそうなことはきちんと勉強するけれど、あまりそうとは思えないことには力を入れないという傾向が感じられます。しかし、今ある職業が数年後にはなくなってしまうこともある。だからこそ幅広い教養に基づいた本質的な力、例えば様々な課題に向き合い解決していける思考力や変革力、異なる価値観を持つ人々と共に生きる力などを身に付けることがより重要になっている、と生徒には伝えていきます。